1日、一度に最大20の小さなグループで研修したりする。PSHEに関わっている任意の教師だったり、学校のPSHEコーディネーターであったりするかもしれない。しかも、PSHEは彼らの教師の主な担当科目ではない。彼らは、例えば地理学を教えることもあれば科学を教えることもあり、PSHEについてはあまり知らない。総括教員や責任のある教員がPSHEで学び、学校や地域でPSHEを広めるコーディネーターになることもある。

（9）PSHEの効果測定

PSHEは、教科の中で試験を受けないし、評価は非常に困難である。しかし、PSHEの教師は、子どもたちが健康について学んできたかを伝えることができる。例えば、我々は例えば喫煙について教えているときに、肺などへのタバコのへの影響だけでなく、ときに友達の圧力に対して抵抗するためのスキルを教えている。あなたは仲間からの圧力を知って、それに抵抗する方法について話しているが、それを評価するのは非常に難しい。事実、我々はテストを行うことは可能であるが実際にははるかに困難である。

私たちは、指導を与えるが、それは彼らが実際にレッスンで行っている活動の性質に大きく依存する。私たちは、ステージ毎にナショナルカリキュラムを分解し、オンラインで対応している。これらは、進行フレームワークと呼ばれる。

(10) 外部の専門家の導入に関して

教師にとって性教育の指導は、かなり神経質に感じる領域であると考える。学校の多くは、その領域では、学校看護師を使っていると思う。他の組織、例えば、家族計画協会やいくつかの慈善団体がある。最も重要なことは、性教育に対応できる教師トレーニングである。

他の問題は、例えば、若い人は避妊のしくみを理解するだけでなく、どう助けを求められるか、地元の診療所はどこにあるか理解することにある。したがって、PSHEの側面は、それらの事実の情報程度であり、頻繁にフィールドに外部の専門家を使用することが本当に重要である。しかし、自己主張や自信、そして実際に彼らが必要とするサービスにアクセスできるように若者に役立つ能力はPSHEで育成する。

E．結論

教員養成段階では、PSHEについて学ぶ機会は少ないものの、PSHE協会等の支援を得て、教師がPSHEを実施していることが明らかにされた。また、PSHE教科で学んだ教師が学校や地域のPSHEのコーディネーターとして、PSHEを広めるのに役立っていることが明らかにされた。

これをがん教育におきかえた場合、児童生徒に対するプログラム開発とともに現役教師の支援・教育プログラムおよび機関の重要性が示唆された。

F．研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G．知的財産の出願・登録状況

なし

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
学校健康教育におけるがんについての教育プログラムの開発研究

分担研究年度終了報告

ハンプシャー州におけるヘルシー・スクールの現状

研究分担者　物部　博文　横浜国立大学　准教授

研究要旨：英国ハンプシャー州では、ヘルシー・スクールの導入に伴った様々な健康教育の取り組みが実施され、その効果が報告されている。本研究では、資料検索と現地でのインタビュー調査を実施した結果、ヘルシー・スクールの理念と具体的な実施についてのプロセス（計画、実施、監査、改善）については、高度な次元で確立されていることが明らかになった。従って、これらの方法を参考にしながら日本におけるがん教育プログラムを支援する制度設計を考えることは有益であると考えられた。しかし、その一方で、インタビュー調査からは、学校が自発的かつ定常的にヘルシー・スクールを継続していくための支援の方略や資金の問題、健康教育に携わる指導者の養成カリキュラムに課題があることが明らかにされた。今後、日本において学校全体で取り組むようながん教育を展開する場合に、学校に対してどのような形で資本を投じ、がん教育のプログラム実施とそれを支援する制度を構築するか、また、がん教育を含む健康教育の指導者養成をどのように確立するかについて考える必要が示唆された。

研究協力者
植田誠治　（聖心女子大学　教授）
助友裕子　（国立がん研究センター　研究員）
杉崎弘周　（新潟医療福祉大学　講師）
森　良一　（国立教育政策研究所　研究員）

A．調査目的

英国ハンプシャー州では、ヘルシー・スクールの導入に伴って、様々な健康教育の取り組みが実施され、その効果が報告されている。

本研究では、英国・ハンプシャー州においてヘルシー・スクールがどのよう理念に基づき、どのように展開されているかを行政側の視点から明らかにすることを目的として、英国・ハンプシャー州ウィンチェスターにある児童サービス（Children's Services at Hampshire County Council,Winchester）を訪問し、ヘルシー・スクールの現状と今後の方向性について調査した。

B．調査方法

2013年3月20日、英国のハンプシャー州で児童福祉を担当しているハンプシャー州児童サービス（Children's Services at Hampshire County Council,Winchester）を訪問し、プログラム実施担当者１名に対するインタビュー調査を実施した。調査はヘルシー・スクールの理念、実践内容、教育の対象、方法、実施主体、活動事例、評価方法について、半構造化インタビューを実施した。インタビューは、13時～14時30分の90分程度実施し、1名のコーディネートのもと3名のインタビュアが質問をし、1名は記録係として同席した。インタビューのやりとりは、筆記にて記録した。またその基礎デ

ータとして、提示された資料（資料１～３）、同団体が提供しているWebサイトならびにリーフレット教材についても分析を行った。

C．調査結果

（１）ハンプシャー州におけるヘルシー・スクール・プロジェクトの現状と理念

１．ヘルシー・スクール・プロジェクトの現状

ハンプシャー・ヘルシースクール・プログラムは、健康で幸福な児童・生徒を育てられるような学校と健康、行動、達成を結び付けるために作成された。2000年に英国政府から予算がつき、教師のトレーニングのためにスタッフや関連する人々が集められた。しかし、2011年には英国政府からのすべての資金供給が停止した状態になっている※1、※2。

※１　国の政策として実施したが、トップダウンではあまり広がらなかったので2011年からはボトムアップに切り替えたのかという質問に対して、経済状況の悪化によって国の支援が打ち切られた様子であった。現状は、18か月の期間に限定して、エビデンスを構築しよう努力している。また、学校スポーツ・パートナーシップもこの年に打ち切られてしまっている。ヘルシー・スクールの現状として、国全体で50校が指定されており、ハンプシャーでも１校が指定されている。

※２　日本貿易振興機構（ジェトロ）報告2012年版英国によると、経済情勢を背景に、英国政府は厳しい緊縮財政を実施しており、その影響をヘルシー・スクール・プロジェクトも受けていると考えられた。

２．ヘルシー・スクール・プロジェクトの理念

ヘルシー・スクール・プロジェクト・プログラムは、学校全体による取り組みを基盤にしている。児童・生徒や若い人たち、パートナー、保護者、学校職員が、学校コミュニティーのすべての構成員の健康や幸福に貢献するように働くことを含んでいる。また、内容として、個人、社会そして健康の教育、健康的な食事、身体活動、精神的な健康とよりよく生きることを含んでいとともに、全体的な取り組みが重要である（図１）。

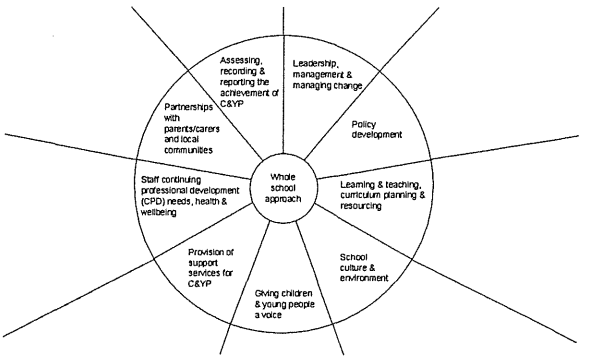

図１　学校全体での取り組み

＜図１の説明＞

1. リーダーシップ、管理、管理の変更
2. （学校の）政策展開
3. 学習と教育、カリキュラム計画とリソーシング
4. 学校文化と環境
5. 児童・生徒や若者に声をかけること
6. 児童・生徒と若者のためのサポート・サービスの提供
7. スタッフ継続プロフェッショナル開発（CPD）のニーズ、健康と福祉
8. 保護者や地域社会とのパートナーシップ
9. 評価、記録し、児童・生徒や若者に対する成果報告

（２）ヘルシー・スクール・プロジェクトの実施方法

ヘルシー・スクールのツール・キットは、英国教育省のウェブサイト(www.education.gov.uk/healthyschools) または、ハンプシャー・ヘルシー・スクールのウェブサイト (www.hants.gov.uk/healthyschools)で閲覧可能である。また、次のように学校のためのハンプシャー・ヘルシー・スクールの手順を通して支援される（図２：資料１）。

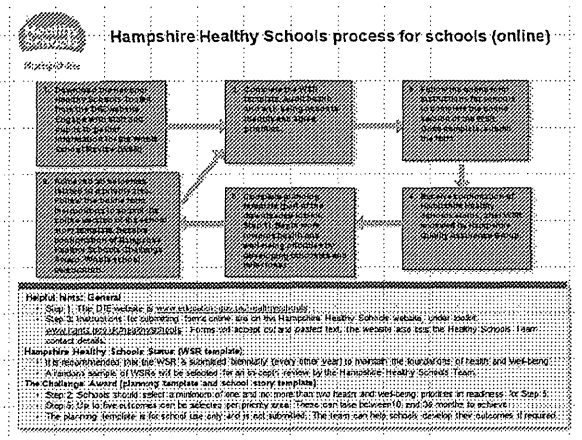

図２　学校のためのヘルシースクールの手順

＜図２：手順の解説＞

1. ヘルシー・スクールのツール・キットを、英国教育省のウェブサイト (www.education.gov.uk/healthyschools) かハンプシャー・ヘルシー・スクールのウェブサイト (www.hants.gov.uk/healthyschools)からダウンロードする。

2. 全体的な学校の概観 (WRS) のテンプレートを完成させ、優先事項を定めるために、その学校の健康と幸福に関する必要性を精査する。

3. WSRと健康および幸福について優先順位を選択し、ヘルシー・スクールのチームのひな型を電子メールで送付する。

4. ハンプシャー州の品質保証グループによって、WSRが再検討された後、ハンプシャー・ヘルシー・スクールから確認書を受け取る。

5. 計画書を完成させ、健康や幸福の優先順位と成果に向けて働き始める。

6. すべての優先事項に関連する成果を成し遂げる。ヘルシー・スクール・チームに学校の報告テンプレートを電子メールで送付する。ハンプシャー・ヘルシー・スクール・チャレンジ賞の承認を受け取る。学校全体で祝賀する。（2のプロセスに続く）

（３）全体的な学校の概観 (WRS) についてのヒント

・WSRは毎年、更新される。
・WSRは２年に一度、健康や幸福のための維持資金を整備する。
・学校は、最低限ひとつ可能であれば2つ、健康や幸福の優先順位を選ばなければならない。
・ハンプトン・ヘルシー・スクール・チームにより、WSRの無作為なサンプルが綿密なレビューのために選ばれる。
・ヘルシー・スクール・プランニングのテンプレートが、健康と幸福を改善するためのツールとして置き換えられる。
・学校の支援は、日常的な教育、ネットワーク・ミーティング、ハンプシャーのウェブサイト、学期ごとの簡単な報告書、PDLニュース、スクール・コミュニケーションを通して供給される。
・WRSのためのハンプシャー・ヘルシー・スクールチームの代表者達は、Glym WrightとAnne McCarthyで、電子メールを通して連絡可能である。

（４）自己開発学習 (PDL)

学校における自己開発学習は、さまざまな機会と活動を網羅し、それらのすべてが児童・生徒及び若者の全人的な発達に貢献する（**図３：資料２**）。

それらは以下の事柄を通して促進される。

・個人・社会・健康教育(PSHE)
・シチズンシップ
・仕事に関連する学習（WRL）
・企業および金融教育
・情報と誘導（ガイダンス）（IAG）
・人権と敬意と責任（RRR）
・社会的・情動的側面の学習（SEAL）
・ヘルシー・スクール
・同僚性の指導や他の活動的な
　シチズンシップの機会
・野外学習

自己開発学習は、児童・生徒に、スキル、自信、正しい選択をする能力を、特別活動、個人の安全やリスクへの気づきを含む安全教育、性および関係性教育（SRE）に参加することによって健康状態を維持することを与える。

PSHEとシチズンシップは、OfSTED科目の監査を受ける。しかし、果たすべき役割を持っている精神的(スピリチュアル)、道徳的、社会的、文化的（SMSC）な発達や気づきを通しても監査されるだろう。これ以上の情報はHPDWのウェブサイト：www.hants.gov.uk/education/hias/hpdwで閲覧できる。

（５）ケータリングサービスを活用した取り組み事例

ケータリングを活用して、児童・生徒が質の高い昼食を得られるように働きかけたが、この背景には保護者が作る弁当の栄養バランスや衛生状態がよくなかったという状況を手掛かりとした。

学校でのケータリングの取り組みは、ゴスポート（Gosport）の6つの学校の共同プロジェクトで実施された。学校給食は児童・生徒のための最も栄養価の高い選択肢であると考えられている。これらは、児童・生徒のためにランチタイムを改善するためのプロジェクトを介して支援されているプロジェクトである。児童・生徒が、学校給食を食べたり、お弁当を持ち込むかどうか考えたりするなど、彼らの選択に影響を与えることを示唆している。すなわち、このプロジェクトは児童・生徒のための肯定的なランチタイムの経験を提供する最善の方法だと考えられた。

このような見解は、最近のパック詰めの軽食の栄養価に関してなんらかの心配している証拠を強調した研究によって支えられている。

A Dairylea Lunchablesハムとチーズクラッカーが食塩1.8g含み、4～6才の児童の半分が毎日食べている。Petits Filous Frubeのほぼ15%が、砂糖である。ロビンソンのFruit Shoot Juice（クロフサスグリとリンゴ）はそれが人工の色でない味と甘味料を使用していると言われているが、各々の飲物は茶さじ4杯以上の砂糖を含んでいる。Fruit Factory Fruit Stringsは、ほぼ50%が砂糖である。1000人の保護者のうち81%は、パック詰めの軽食を児童のランチ・ボックスに含ませている。これらは、児童の健康にとって良くないパック詰めの軽食であるし、彼らの両親の財布にとっても良くないのである。

（６）ヘルシー・スクールを構築するための教員養成

教員養成段階でどの程度学ぶのかという質問に対して、ウィンチェスター大学とサウザンプトン大学で教員養成をしているが、ウィンチ

ェスター大学では、調査対象者がリーフレット（添付資料）について2～300名程度の学生に45分の授業２コマで説明する程度であるという回答が得られた。一方でサウサンプトン大学は、教員養成段階での資質向上に取り組んでおり、養成段階でのプログラム差があると考えられた※3。

※３　Sarah P., Anjum M., Marcus G.,et.al: "Developing trainee school teachers' expertise as health promoters", Health Education, Vol. 110 Iss: 6, pp.490-507、2010.

などの文献が検索でき、この内容から推測すると養成段階において教師のヘルス・プロモーターとしてのスキル向上に努めていると言える。

D．考察

ヘルシー・スクールの理念と具体的な実施についてのプロセス（計画、実施、監査、改善）については、高度に確立されているともに、プログラムが実践されていることも明らかになった。また、実際にはインタビューで語られ、上記に示したケータリングサービスに関する取り組み以外のさまざまな活動を展開していることがウェブサイトに掲載されており、効果に関してもある一定の成果を得ていると考えられた。

しかし、ヘルシー・スクールのプログラムを実施するには、上記のシステムを運営するマンパワーや資本の投入が必要であり、これらの費用の目処が立たなくなった現状でヘルシー・スクールがどのように維持されるのかについて継続的に注視する必要がある。

一方で、ヘルシー・スクールのコーディネーターとなる教員の養成に関しては、大学のカリキュラムや質について確立しておらず、大学教員の熱意等によって養成プロラグラムが左右されている可能性が伺われた。

E．結論

ヘルシー・スクールの理念と具体的な実施についてのプロセスについては、高度な次元で確立されているので、これらの方法を参考にしながら日本におけるがん教育プログラムを支援する制度設計を考えることは可能であると考えられた。しかし、英国・ハンプシャー州においては、ヘルシー・スクールが自発的に継続していくための方略や指導者養成に課題があると考えられた。今後、日本においてがん教育を展開する場合に、学校にどのような形で資金を投じ、がん教育プログラムの効果的な実施とそれを支援する制度を構築するか、また、指導者養成をどのように確立するかについて考える必要がある。

F．研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G．知的財産の出願・登録状況

なし

Healthy Schools whole school review

This template encourages you to think through and record your school's provision for children and young people's health and wellbeing. The review is organised under nine headings:

1. Leadership, management and managing change
2. Policy development
3. Learning and teaching, curriculum planning and resourcing
4. School culture and environment
5. Giving children and young people a voice
6. Provision of support services for children and young people
7. Staff continuing professional development (CPD) needs, health and wellbeing
8. Partnerships with parents/carers and local communities
9. Assessing, recording and reporting the achievement of children and young people.

This template suggests a series of questions for self-review, all of which can be edited to suit your own school context. You may wish to use the template to record your school's provision.

Some guidance and tips for Hampshire Schools on completing this document

Healthy Schools managers may wish to create an initial first draft of this whole school review (WSR), but it is important that a wider group from the school community also make contributions in order to capture a broad range of practice. The Healthy Schools Team recommends that schools note down their own response to the questions below ***before*** *they look at the guidance and tips which follows.*

In many of the questions below, a fuller response can be developed by thinking through the contribution of the four core themes of healthy schools: personal, social and health education (PSHE), healthy eating, physical activity and emotional health and well-being.

*Also note that the WSR provides an opportunity for schools to highlight some positive data, eg: "*We have six after-school clubs and 70% of our young people access*" or "*We have been promoting school meals and this has seen an increase of 10% take-up over last two terms*" or "*We introduced peer mentoring and our behaviour referrals dropped from ...% to ...%*".*

1. Leadership, management and managing change

1.1 - How does your school provide the leadership to create a positive environment that promotes health and wellbeing?

Do not forget the following can also show the leadership and emphasis given to creating a positive environment:

- *mission statement*
- *prospectus*
- *minutes of governors' meetings*
- *management of the behaviour and rewards policies.*
- *school development plan*
- *well-being projects (staff, children and young people).*

1.2 - Who are the lead members of staff responsible for aspects of health and wellbeing at school? (for example PSHE education, healthy eating, physical activity)

Name and job title of staff for each of the four areas: PSHE, healthy eating, physical activity and emotional health and well-being
Is there a governor with responsibility for health and well-being?

2. Policy development

2.1 - What are the key health and wellbeing policies at your school? (for example sex and relationship education policy, anti-bullying policy, drugs policy, healthy eating)
You may wish to list these and keep a note of the date each policy is next due for review.

The following are expected to be in place for a Healthy School, a school may have others it wishes to include.

Adding the last review date as well as the next review date will make the process easier in future as the WSR is submitted every two years. The period between policy review dates should be no longer than three years.

Policies should be in date *when the WSR is submitted to the Hampshire quality assurance group.*

Do not forget that exemplar templates for most of these policies are available on the Hampshire Healthy Schools website: www.hants.gov.uk/education/hias/healthyschools/themedareas.htm .

- *PSHE/personal development learning (PDL).*
- *Drug education/ drug incident management (if not in PSHE).*
- *Sex and relationship education (SRE) (if not in PSHE).*
- *Confidentiality.*
- *Safeguarding.*
- *Physical activity.*
- *Healthy eating.*
- *Anti-bullying.*
- *Visitors.*

2.2 - How does your school consult people when reviewing any of these policies?

Explain the process for developing and reviewing policies, including who is involved. Do not forget that parents and pupils should be included – how are they given the opportunity to feedback and influence?

3. Learning and teaching, curriculum planning and resourcing

3.1 - How does your school monitor and evaluate PSHE education provision to ensure the quality of learning and teaching?

Describe your approach. Monitoring is keeping track of implementation. Evaluating is judging the effectiveness of activities, materials and approaches.

Do not forget to include lesson observations, staff /learning support assistants (LSA)/visitor comments and evaluations, feedback from pupils, how frequently schemes of work are reviewed and updated, work sampling, development plans for PSHE.

3.2 - How do subjects of relevance to health and wellbeing meet the learning needs of children and young people in your school in line with current best practice?

Responses should include some brief description of the school's planned provision around PSHE, healthy eating, physical activity and emotional health and well-being. Include brief mention of the things that enrich this such as the use of visitors, theatre groups, etc. In terms of best practice what national and local guidance have been used to shape these subjects? This may include things such as the school's PSHE is guided by the current national non-statutory programme of study for PSHE and current national guidance around SRE and drug education. Has it been based on Hampshire's Supporting personal development learning – *guidelines* for schools, *2011 (or its predecessor from 2001) (which can be found at: www.hants.gov.uk/education/hias/pdl/pdl-guidelines.htm) and the Hampshire primary or secondary drugs planning? Has your programme seen any changes following staff continuing professional development (CPD) for example, any training on teenage pregnancy issues? How often is the programme reviewed (to show it is current)?*

What about healthy eating? Over and above the design and technology (D&T) and the science curriculum, has anything else guided the school's provision of learning around this area, eg: good models of healthy eating provided at breakfast clubs and/or in after-school clubs, work with the school kitchen to explain the national school meal standards to pupils. Consistent messages provided in lessons regarding healthy eating using accepted national guidance such as the Eatwell Plate, five a day, Change4Life. Physical activity – What is the legacy of the local sports partnership in the best practice shared with the physical education (PE) staff? What was the best practice shown in the school travel plan? Has the school achieved any national or local recognition for its physical activity provision? Emotional health and well-being. What guided the school's approach to anti-bullying work? Local Hampshire guidance? Anti-bullying Alliance? What about other subjects/topics covering learning around emotional health and well-being? Are social and emotional aspects of learning (SEAL) materials and planning still in use?

3.3 - How does your school ensure structured physical activity is available for all of your children and young people?

Complete with the support of PE staff. *The structured physical activity may take place within or outside of the curriculum. This may include for example active play at break-times with lunchtime supervisors; fit breaks in assemblies/before lessons; what mechanisms are in place to engage all children and ensure that physical activity is inclusive?*

4. School culture and environment

4.1 - How does your school culture and environment enable engagement of the whole school community? (especially children and young people in challenging circumstances and those with access issues)

How does your school culture and environment engage the whole school community? This will include not just parents/carers, but the wider local community of the school including local organisations and groups.

What measures does your school take to involve and engage everyone (especially children and young people in challenging circumstances, those who are vulnerable and those with accessibility issues)? Everyone can include staff and parents/carers as well. Examples: using languages other than English, Braille or sign language at meetings or to support other communications. It may also mean arranging meetings in accessible buildings. Actively engage with community groups.

4.2 - How does your school environment promote health and wellbeing? (for example through access to clean and palatable drinking water and access to healthy food and drink in line with best practice)

How does the environment promote physical health and well-being? Examples can include: outdoor space available and how it is utilised, school dining environment, how does it promote emotional health and well-being? Examples can include: colourful displays in and around the school, quiet areas/chill out rooms, behaviour and rewards.

5. Giving children and young people a voice

5.1 - What systems and processes are in place to ensure the views of all children and young people are reflected across all areas of school life? (For example curriculum and policy development, environment and behaviour)

Describe the school's systems and processes.

All *children and young people will include those with special needs, specific medical conditions and those in challenging circumstances such as children in care, teenage parents and young carers.*

How has pupil voice had an input to:

- *curriculum/policy development*
- *learning and teaching*
- *the school environment*
- *personal development and well-being/behaviour.*

What use is made of the Hampshire Pupil Attitude survey or its online replacement What do I think *survey?*

5.2 - How does your school respond to the needs of all children and young people, including those who are less vocal and visible?

Again all children and young people will include those with special needs, specific medical conditions and those in challenging circumstances such as children in care, teenage parents and young carers but do not forget those who may be overlooked as they stay in the background. How does the school identify and meet their needs?

Pastoral system/ideas boxes in school/questionnaires to pupils and parents/carers/regular monitoring of specific groups/peer mentoring or support/self-esteem groups/friendship groups/ELSA/nurture groups.

5.3 - What opportunities are there for children and young people to develop responsibility, build confidence and self-esteem?

Schools normally have lots of examples. Do not forget less routine things like pupils on interview panels for new staff and school talent shows. Active citizenship is a rich source of inspiration. Examples also include: peer mentors; play leaders; monitors; use of circle time. Where appropriate, include examples of opportunities for Key Stage 1 pupils.

6. Provision of support services for children and young people

6.1 - How does your school identify children and young people facing challenging circumstances? What support is provided for these identified groups?

Explain the school's approach to identifying groups. It is helpful to list the identified groups and the support provided.

6.2 - What arrangements are in place to refer children and young people to specialist services that can give professional advice?

This may include advice about contraception, sexual health, loss and bereavement, mental health and substance misuse (drugs, alcohol and tobacco). For younger pupils, it will be referral of the family to agencies, eg: educational psychologists, speech and language service, educational welfare officers. Describe the formal arrangements the school has for making referrals.

6.3 - How does your school respect the confidentiality of children and young people, parents/carers and staff who access advice and support via the school?

This will include reference to the school's confidentiality and safeguarding policies.

7. Staff continuing professional development (CPD) needs, health and wellbeing

7.1 - What continuing professional development (CPD) opportunities, relevant to health and wellbeing, do your staff have access to this year?

CPD opportunities may happen in a wide range of areas such as:

- *PSHE education including SRE, financial capability and drug education*
- *healthy eating*
- *physical activity*
- *emotional health and well-being*
- *safeguarding (child protection and anti-bullying)*
- *pastoral care.*

Do not forget PDL /Healthy Schools courses and network meetings.

7.2 - How does your school identify staff CPD needs of relevance to health and wellbeing?

Describe the formal and informal mechanisms which help to identity staff CPD needs so that staff feel able to support children and young people in the school's health and well-being work.

7.3 - How does your school encourage staff to develop and maintain a healthy lifestyle to enable them to be positive role models?

Include both physical and emotional health and well-being. It may include regular activities such as a staff Pilates club after school or staff taking part in school sports activities and more occasional events like fun runs, staff socials, etc.

How is work/life balance encouraged? The Well-being of the workforce website can be useful: www.hants.gov.uk/education/hias/wellbeing-workforce.htm .

8. Partnerships with parents/carers and local communities

8.1 - Who are the external agencies that support your school?

Include the agencies that make an input to the curriculum as well as those who contribute to extended services. It may help to think about these areas:

- *sex and relationship education*
- *healthy eating*
- *drug education*
- *physical activity*
- *emotional health and well-being*
- *PSHE education.*

8.2 - How does your school signpost children and young people to appropriate services, within and beyond your school?

Explain how the school ensures that the information and details of support required by children and young people is provided to those who may need it. For younger children, it may be that most of the potential support is internal to the school. For older age groups, it will include services beyond the school. External organisations such as Childline offer support to a wide range of age groups.

8.3 - How does your school signpost parents/carers to appropriate services?

Explain how the school ensures that the information and details of support required by parents/carers is provided to those who may need it. This may include providing the signposts in different languages and via different media, eg: school newsletters, websites.

8.4 - You may wish to record details of the topic and dates of sessions planned for parents/carers on health and wellbeing awareness during the coming year

May include drugs education, healthy eating/sampling school lunches, bullying, loss and bereavement, sexual health. A health and well-being awareness session may be part of another event such as new parents' induction.

9. Assessing, recording and reporting the achievement of children and young people

9.1 - How does your school assess and report on the progress and achievement of children and young people in subjects relevant to their health and wellbeing?

Explain the school's systems and processes. Assessing progress – do not forget Early Years Foundation Stage (EYFS) Profile and PSHE end of Key Stage statements. How frequently are assessments made? Assessment for Learning and Assessment of Learning.

9.2 - How does your school celebrate the achievements of children and young people across all areas of school life?

Schools normally have lots of examples. Are achievements made outside school also recognised?

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
学校健康教育におけるがんについての教育プログラムの開発研究

分担研究年度終了報告

ウェールズにおける学校健康教育の概要
—がん教育の可能性を探る—

研究分担者　物部　博文　横浜国立大学　准教授

研究要旨：英国・ウェールズでは、テーンエイジ・キャンサー・トラストの活動が実施されており、がん教育に関する実際的な情報が得られる可能性が示唆された。また、文化的に英国・イングランドとは異なる基盤を持つウェールズの教育システムと健康教育の実施状況を把握することは重要であると考えられた。従って、英国・ウェールズにおいて学校教育の中で健康教育がどのよう理念に基づき、どのように展開されているかを行政側の視点から明らかにすることを目的として、英国・ウェールズのカーディフにあるウェールズ政府教育技術局を訪問し、学校健康教育の方向性とその支援状況について調査した。その結果、英・ウェールズの学校では、児童・生徒および学校のニーズに応じてプログラムを展開することが可能であり、地域の活動団体の活用が重要な役割を占めることが明らかにされた。しかし、その一方で、すべての学校に同様なプログラムを実施することは不可能であることが明らかにされた。このように英・ウェールズの学校健康教育を通すことによって、日本における健康教育の優れた点についても見出せた。すなわち、学習指導要領と国定教科書による公教育における教育の質の確保である。以上のような観点から、日本でがん教育のプログラムを開発する場合は、現行学習指導要領との位置づけを確認しながらがん教育のプログラムを開発することが、結果的により多くの児童・生徒にがんに対するリテラシーを高めることにつながると予測された。

研究協力者
植田誠治　（聖心女子大学　教授）
助友裕子　（国立がん研究センター　研究員）
杉崎弘周　（新潟医療福祉大学　講師）
森　良一　（国立教育政策研究所　研究員）

A．調査目的

英国・ウェールズでは、テーンエイジ・キャンサー・トラストの活動が実施されており、がん教育に関する実際的な情報が得られる可能性が示唆された。また、文化的に英国・イングランドとは異なる基盤を持つウェールズの教育システムと健康教育の実施状況を把握することは重要であると考えられた。

本研究では、英国・ウェールズにおいて学校教育の中で健康教育がどのよう理念に基づき、どのように展開されているかを行政側の視点から明らかにすること、がん教育がどのように展開されているかを把握することを目的として、英国・ウェールズのカーディフにあるウェールズ政府教育技術局を訪問し、学校健康教育の方向性とその支援状況について調査した。

B．調査方法

2013年3月22日、英国のウェールズで教育行政を担当しているウェールズ政府教育技術局カリキュラム部門（Curriculum Branch Curriculum Division Schools and Young People Group Department for Education and Skills Wealth Government,Cardiff）を訪問し、関係者３名に対する聞き取り調査を実施した。調査はウェールズの教育制度、健康教育の内容、教育の対象、方法、実施主体、教材、評価方法について、半構造化インタビューを実施した。インタビューは午前10時～12時の120分程度実施され、1名のコーディネートのもと3名のインタビュアが質問をし、1名は記録係として同席した。インタビューのやりとりは対象者の許可を得たうえでICレコーダーに記録した。またその基礎データとして、提示された資料（資料１～３）、同団体が提供しているWebサイトならびにリーフレット教材についても分析を行った。

C．調査結果

（１）ウェールズの教育システムの概要

1. ウェールズにおける教育理念

1999年よりウェールズ議会が開かれるようになった。その結果、政策、防衛、外務、税制、社会保障に関する法律は英国政府の管理下に残されるものの、他の多くの公共サービスは、ウェールズにその権限を委譲されるようになった。ウェールズ議会は、教育、環境、保健サービス、交通機関や地方自治体などの事項についての意思決定を行い、これらの事項について、ウェールズの法律を通過させる権力を持っている。

したがって、ウェールズ教育技術局は、ウェールズにおける教育と技能の責任者であり、一人一人が自分の能力を発揮することができるような教育や訓練を提供し、達成させる。ウェールズのインフラ水準の向上に努め、高品質な機会を得て適切に熟練した労働力を提供するとともに、すべての学習者のための教育や訓練を通じて、経済的･社会的な幸福を損なう不平等の改善のために、個人、家族、地域社会や企業を支援している。その中で、カリキュラムブランチは、教育技能大臣の助言と概観のもとに学校のカリキュラム（とその評価の手配）について維持する責任がある。さらにウェールズの学習者のニーズを満たすために、学校および22の地方自治体と連携し働いている。

ウェールズ政府は、すべての子どもと若者のための最高の成果を確保するために必要な変化をもたらすために、学校、地方自治体やEstyn（教育及びウェールズのトレーニングのための女王陛下の学校視察）と共同で働いている。

Estynは、ウェールズの教育と訓練の提供者の品質や規格を検査している。また、ウェールズにおける教育と研修の質と基準についてウェールズ政府に助言を提供し、教育･訓練におけるグッド･プラクティスの普及を推進している。

2. ウェールズにおける学校構成

ウェールズは、22の幼稚園（3-5歳まで）、1423の初等学校（3-11歳）、221の中等学校（11-16歳または11-18歳）、43の特別支援学校（3-18歳）、67の独立学校を有する。

3. 学校教育におけるカリキュラム

ウェールズは、3-19歳の児童・生徒のためのカリキュラムを有しており、新しいカリキュラムは2008年に導入されている。その主な目的の一つとして、何を教えるかを通して学校や学習者を詳細に制御することである。しかし、教科内容は、削減され、カリキュラムがどのように実施されるかの柔軟性は、学校に与えられるよ

うになっている。

カリキュラムは、ファンデーション・フェーズ（3-7歳）のフレームワーク、7-14歳のためのナショナル・カリキュラム教科（ウェールズ語、英語、数学、科学、芸術とデザイン、地理、歴史、情報とコミュニケーション技術、現代外国語、音楽、体育）、パーソナル＆ソーシャル教育(PSE)のフレームワーク、キャリアと世界の仕事(CWW)のフレームワーク、宗教教育のための国民の模範のフレームワークで構成される。

カリキュラムは、各キーの段階で何が教えられるかの詳細を供給する。また、児童・生徒の学習の予想される基準を設定する到達目標を（www.wales.gov.uk/ educationandskills）で見られるようになっている。

時間配分や教科の組織についての制約はないものの、学校では、学習の進行や継続性を確保し、すべての学習者が、全体のプログラムへのアクセスを持っている必要がある。

4. 法定評価の取り決め

ウェールズは、2002年に7歳の、2004年には11歳のための、2005年には14歳のためのナショナル・カリキュラム監査を廃止した。ランキング表を持っていない。評定評価は教師の評価を通してのみである。学校では、7歳、11歳と14歳において重要なキーステージの終わりの法定アセスメントを実施し、親に報告し、以下のようにウォルシュ政府にデータを提供しなければならない。

・7歳（キーステージ１　2011まで）：英語、ウェールズ中等学校におけるウェールズ語、数学、科学、

・11歳（キーステージ２）：英語とウェールズ語（初習言語）、数学と科学。2009-2010年に保護者に報告するためのウェルシュ第二言語の評価もしなければならない。

・14歳（キーステージ３）すべてのナショナル・カリキュラム科目。

5. 優先される事項

ウェールズ政府は３つの相互に結びついた優先事項を有している。それは、識字レベルの改善、計算能力レベルの改善、学歴による貧困への影響の低減である。我々はよりよい学びの成果を達成し、社会経済的な背景に寄らず、すべての人の幸福、そして、学級、学校、地方自治体内あるいはそれらの間の学びの成果における変動を減らそうとしている。

6. 国の識字能力と計算能力のフレームワーク

これらの目標を達成するため、新たな法定の国家識字と計算能力についてのフレームワークが開発されており、2012年9月には試験的に学校に導入され、2013年9月から法によって定められる対象となる。このフレームワークは、5-14歳の学習者の識字能力と計算能力について、毎年、期待される成果を学校に供給する。これに関して、児童生徒の識字能力と計算能力の達成レベルを向上させるためにカリキュラムを横断的に適用し、すべての教科の教師について情報支援する。

7. 7-16歳におけるナショナル・カリキュラム

各キーの段階で何を教えるかの詳細と到達目標としての児童・生徒の学習の予想基準については、（www.wales.gov.uk/ educationandskills）で見られる。

8. 他のカリキュラム要件

すべての学校は、法律によって、とりわけ両親によって検査可能な最新の明記された性教育の方針を持つ必要がある。すべての中等教育